

普及活動情勢報告（令和6年11月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

出荷開始に向けて！

～大方園芸部キュウリ部会目慣らし会の開催～



10月28日、JA高知県大方集出荷場で、大方園芸部キュウリ部会の目慣らし会が行われ、農家11名が参加しました。

会では、JAから出荷規格について説明した後、実際にサンプルを見ながら等級を確認しました。

農業改良普及課からは、黄化えそ病や退緑黄化病についての注意喚起と、ミナミキイロアザミウマの野外調査結果について情報提供しました。

農家からは、「今年は今でも暖かく虫の発生が多い」「防除を徹底せんといかん」等の意見があり、ウイルス病対策についての意識の高さが見受けられました。

今後も関係機関と連携して、収量・品質の高位平準化に向けてキュウリ部会を支援をしていきます。

篤農家の力も借りて次代の普及職員の育成支援！

～課内で果樹研修会を実施～



10月31日、四万十市の文旦農家のほ場で、所内果樹研修会を実施し、農業改良普及課の職員5名が参加しました。

農業改良普及課では、果樹担当の後継者育成の一環として毎月、当課の若手職員を対象に研修会を行っています。

今回は文旦の篤農家2戸を訪問し、園地を視察した後、パソコンで野囲い作業風景を動画で視聴し、文旦の保存方法や土づくりについて実践的な管理技術を学びました。

農家から、「一人前の果樹担当普及員になることを期待している」と言われて、若手職員は気を引き締めていました。

今後も若手職員を対象に、果樹研修を実施していきます。

非辛みシシトウの栽培を学ぼう！

～自主企画研修で三原村のシシトウを視察～



11月9日、三原村の雨よけシシトウ農家のほ場で、県主催の自主企画研修を開催し、県内の普及指導員・JA営農指導員のシシトウ担当者8名が参加しました。

会では、非辛みシシトウ品種を栽培している篤農家のほ場を見学し、稔枝を中心とした仕立て方やかん水・追肥などの栽培管理技術を学ぶことができました。

参加者からは、「栽培暦の参考になる管理を確認できた」「仕立て方の詳細が分かった」「かん水のやり方や重要性が分かった」といった意見があり、活発な意見交換ができました。

今後も篤農家の栽培管理を参考にしながら、品種特性に応じた栽培マニュアルを検討・作成し、シシトウ農家を支援していきます。

農業経営の資金繰りは重要 ～新規就農者に簿記指導～



11月15日、幡多農業振興センターで、普及課の経営担当職員が認定新規就農者1名に対して、簿記記帳指導を行いました。

この認定新規就農者は、今年度に園芸用ハウス整備事業を活用し就農したピーマン農家で、毎月簿記指導を実施しています。

今回は、農家が記帳してきた内容を見て、借入金の支払期日と金額を確認しました。農家からは「そんなに払うのか」という反応がありましたが、償還計画を示しながら資金繰りの重要性を説明し、納得していました。

今後も簿記指導を行い、決算書作成まで支援していきます。

地域農業の将来の在り方は？ ～四万十市大川筋地区での地域計画作成座談会～



11月15日、四万十市大川筋地区の地域計画作成に向けた座談会が「四万十カヌーとキャンプの里かわらっこ」で開催され、農業委員や地域の農業者16名が参加しました。

農業改良普及課は、グループでの協議における進行役を担い、課題の抽出や目標地図について話し合いを進めました。

参加者からは、「高齢化しており後継者はいない」「地域外の人に耕作してもらえたら」「荒らさないよう保安全管理は続けたい」などの意見がありました。

地域計画は年度内に策定される予定で、策定後は地域計画の実現に向けて支援をしていきます。

有機農業に取り組んでみませんか！ ～土佐清水市環境保全型農業直接支払交付金説明会～



11月15日、土佐清水市役所会議室において、環境保全型農業直接支払交付金制度の説明会が開催され、生産者21名、関係機関7名が参加しました。

会では、土佐清水市から交付金制度の説明があり、農業改良普及課からは、県補助事業について説明を行いました。その後、「(一社)次代の農と食をつくる会」代表の千葉康伸氏から実際の有機栽培の取組について報告がありました。

参加者からは、「今、栽培している作物を支援対象としてほしい」「グループを作って直接支払制度に取り組んでみたい」などの意見があり、活発な意見交換が行われました。

今後は、参加者にアンケートを行い、制度に取り組む農業者団体の設立に向けて支援していきます。